

論 文 要 旨

Preoperative classification of submucosal fibrosis in colorectal laterally spreading tumors by endoscopic ultrasonography

大腸側方発育型腫瘍における
術前超音波内視鏡による粘膜下層の線維化予測の検討

牧野 智礼

【背景及び目的】

大腸側方発育型腫瘍(以下 LST)を含む大腸腫瘍に対する大腸粘膜下層剥離術(以下 ESD)の手技は確立されているが、大腸壁は薄く、高度な線維化病変への応用は非常に困難である。我々は、術前超音波内視鏡(以下 EUS)を用いて、大腸 ESD を施行した患者における線維化予測を検討した。

【患者及び方法】

2009 年から 2013 年までに EUS と大腸 ESD を施行した LST 58 症例に対して、後ろ向きに評価した。ESD の際の線維化の程度を F0(線維化なし)、F1(軽度線維化)、F2(高度線維化)と分類した。

【結 果】

全症例における術前 EUS による線維化予測の感度と特異度は、それぞれ 77.8%、57.1%であった。しかしながら、腫瘍部の明瞭な断層像を描出できた 36 症例の LST に対する精度は、97.2% (35/36) と高かった。

1 症例は術前 EUS で線維化なしと判断したが、結果的には大腸癌が粘膜下層に浸潤しており ESD の際に高度線維化を認めた。

【結 論】

大腸 ESD 前の術前 EUS はいくつかの症例で線維化予測に成功した。